

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念のなかに、ふれあいを大切にしながらとうたっている。穏やかで不安のない生活、その人らしい生活の支援。	○	利用者を支援する際の具体的な取り組みのすべてが、理念に照らしたものであるように取り組んでいる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員全員が見える場所に掲げ、ミーティング、勉強会の折に理念に照らし合わせて取り組むことを確認している。	○	理念の共有に向けて、日々職員と言葉を交わし、記録を共有することをこれからも務めていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	お便りのなかに、また家族が来所された折の話し合いの中に、常に理念に照らし合わせた実践をしている旨を伝えている。	○	家族や地域の人々との接点を大切にしながら今後も取り組んでいく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々から畑栽培の指導を受けたり、毎週金曜日にボランティアに来ていただいている。	○	介護教室に参加している方々にボランティア活動への働きかけをしている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中の保育園の運動会への参加、水利組合への加入、地域の清掃などに参加し、正月には地域の神楽に毎年清めてもらっている。	○	自治会への参加は、個人の世帯という規約があり、まだ入会できないが規約の改正があればすぐ入会する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎週金曜日、定期的に地域の高齢者に参加してもらい、憩いの場として部屋も確保し、憩いの場となっている。	○	憩いの場の利用をさらに呼び掛ける。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かすために、結果については公表し、職員全員の取り組みとして積極的に取り組んでいる。	○	項目を掲げて実践していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	テーマを設けて運営推進委員会を開き、委員会で記録したことを職員と共に検討して取り組んでいる。	○	10月の運営推進委員会では、実際にあった看取りをテーマに話し合い、その結果を職員に伝えて今後活かしていくことにした。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	報告事項が生じた場合には市に行き、そこで話し合うことがある。運営推進委員会の際は、市職員も含まれているので、様々話し合うことがある。	○	機会をつくって市担当者と話し合いをしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、毎週金曜日の学習会で学び、研修会があれば受講し、現在適用する一人の利用者の支援をしている。	○	成年後見制度を利用している一人については、弁護士が来所した際には要請があったため施設長も同席、対応した。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のために、研修を受け、勉強会を週1回持ち、どのようなことが虐待であるかを学び虐待防止に努めている。	○	虐待については、身体的虐待だけではなく言葉かけの大切さも話し合い、防止に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時の入所契約書、重要事項説明書、情報提供に関する同意書、預り金取扱規定、身体拘束に関する説明書等について、疑問があれば質問を受け、納得してもらえるまで説明している。</p>	<p>○</p> <p>疑問点についての納得が得られるまで話し合いを持つ。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情の窓口を設け、ご意見箱を設置して不満、苦情等の受付をしている。苦情処理委員会を設け、市役所の苦情窓口も紹介している。</p>	<p>○</p> <p>ご意見箱を設けている。苦情処理委員会を設置しているが、今まで苦情として申し込まれたことはない。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態については、全職員からアセスメントを提出してもらい、それらを基にした健康状態を来所時、受診時に報告している。金銭については、正確に記帳し、領収書を付して家族に定期的に渡している。</p>	<p>○</p> <p>ケアプランの発送にあたっては、要望事項があれば記入してもらう欄を設けている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設け、苦情委員会を設けている。現在まであまり不平不満が寄せられたことはないが、要望については可能な限り対応している。</p>	<p>○</p> <p>苦情が寄せられたことはないが、要望等についてはすぐ対応している。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員は毎週月曜日のミーティングで、職員の声を聞き、運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>職員の意見を取り上げるために、ミーティングでは司会は全職員が順番で行い運営に反映させている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月20日までに休日希望日を提出し、調整し、必要な時間帯に必要な職員を配置している。</p>	<p>○</p> <p>規定の利用者3人に職員1人の人数より職員数は多く、夜勤者は利用者9人に1人体制で規定よりかなり手厚く配置している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>2ユニットのグループホームの運営なので異動はない。離職があった場合には、ただちにハローワークに求人申込をして、利用者のダメージを防いでいる。</p>	<p>○</p> <p>離職者の大部分は、3か月の試用期間中の介護職に適應できない職員か自己都合によるもので、現在は皆喜びを持って介護している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会を毎週金曜日に持ち、まとめた成果を提出させている。毎週月曜日のミーティングには、日々の一人一人の介護について理念に照らして検証し、実践している。</p>	<p>○</p> <p>皆でその人に合った介護をするために複数の職員の意見を取り入れて、共通理解のもとに支援し、見直し、実行している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会等でお互いに情報交換やそれぞれの想いを話し合っている。お便りの交換もあり、そこからサービスの向上につなげられることを収集している。</p>	<p>○</p> <p>花北地区の研修会があり、職員は順次参加して相互交流もあり、サービスの向上につなげている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスの軽減は、日々の介護の現場で評価の言葉を掛け、健康への気遣いの言葉を掛け、また利用者からいただいた喜びについて共有するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>役割分担をし、正職員、パートともに持てる力を十分に自発的に発揮できるようにしている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>できるだけ公平に評価できるように現場に足を運んで勤務の状況を知り、向上心を持って働けるよう評価の言葉かけをしている。</p>	<p>○</p> <p>評価したことを昇給、賞与などに反映させている。また、研修への積極的な受講をすすめ、向上心を培っている。</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人、家族からこれまでの生活の様子を聞き、更に日々の介護を通して不安や求めていることがあることを感じ取り、聞く機会をつくり直に対応できるよう職員間の連絡を密にしている。</p>	<p>○</p> <p>居室で、リビングで、相談室で話を聞き、あるいは喫茶に行く、食事に行くなどあらゆる機会を設けて受容、傾聴している。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所申込があつて訪問した際は、契約時に家族または介護ヘルパーなどからも不安や求めていることを詳細に聞き、信頼関係を築いている。</p>	<p>○</p> <p>聞き取ったことは記録し、勉強会、ミーティングなどで話し合い、すべてを受容することの大切さを認識している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の関わり合いは信頼を得るためには大切で、必要があれば利用者と共に外出、外食などして話を聞き、対応に努めている。	○	本人、または家族から訴えのあった時は、その人に合った支援としてドライブ・歌・踊りなどの楽しい環境の中で一人ではないということを認識してもらっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し、納得した上でサービスは絶対必要条件であるので、まず面接をしたり来所してもらうなどして家族から利用者の訴えや背景なども聞きながら支援を約束している。	○	雰囲気づくりをした上で、やさしく言葉をかけ、すべてを受容して馴染みの関係を築いている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	様々な場面で喜怒哀楽を共有し、心が通じ合うことを体感してもらい、人生の先輩として教えてもらえる場をつくる。	○	職員主導ではなく、「教えてください」「ありがとうございました」の言葉かけをして支え合う関係を築いている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力あつての介護であることを理解してもらう。	○	家族に必ず相談、報告をして協力を求め、職員の協力体制を築いていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族から入所するまでの様子をできる限り話してもらい、理解し、入所後の生活に反映させている。	○	利用者の全貌を知り、職員もわかった上で理念に沿ったケアに努め、家族に報告しよい関係を築いている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人の訪問を歓迎し、共にくつろいだ時間を過ごせるようにしている。贈り物が届いたときは電話で直接会話してもらっている。	○	訪問していただいた方や電話を記録し、利用者との話題として継続が途切れないように配慮している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士はグループにし、孤立する人がいないよう日頃の利用者同士の関係に配慮している。	○	仲間同士の散歩、外出、外食、団欒に配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一か月以上の入院となった際にも、入院先を訪問しお見舞いしている。ほかの施設に移った際にも必ず訪問し、様子を見て職員に伝えている。	○	10月に看取りをしたその家族は、その後ボランティアをしたいと伝えてきた。 自立で在宅となった利用者を訪問し、その後の生活の様子を聞いている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応の大切さは日々感じているので、ミーティング、記録などで一人ひとりの状態の把握に努め対応している。	○	本人本位の対応も必要な時があり、食事の時間をずらしたり、就寝時間も夜間の状態を勘案して個別に対応している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	業務日誌、個別記録、ミーティングなどから経過の把握に努めて、その人に合った支援の基としている。	○	これまでの暮らしを把握して、どのようなケアがよいか検討し、実行し見直しを重ねている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれの暮らし方は、他の利用者、職員との関係もあるので、気づいたことは記録報告をして、総合的把握に努めている。	○	総合的に把握できたらケアの取り組みを検討し、個別対応の必要なところは項目をつくって実施、結果の報告、記録をしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の言動を知り、関わりのある人々のそれぞれの意見、アイデアをスムーズに伝えるような雰囲気づくりをし、話してもらい、電話連絡を密にして計画を作成している。	○	介護計画の作成にあたって、他に要望事項があれば記入してもらうよう欄を設けて発送し、記入してもらっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応できなかった分や新たに必要となった分についての見直し、検討、実行を常に関係する人々と話し合い、現状に即した計画を作成している。	○	見守りの中で小さな変化を見逃さず、家族にも報告し、職員もその解決に向けてのケアを共有し、実行している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、健康面、身体面、精神面などを記録し、情報の共有に努めて介護計画に反映させている。	○	記録紙、問題が生じればその改善に向けてミーティングをし、実行の方法などを話し合い実行している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性の一つに近隣の方々による毎週金曜日のボランティアがある。	○	年齢の近い方々で構成されている。金ママの会と一緒に談笑、歌、踊りなどでも楽しみ、多機能性を活かした支援をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアとして、月1回絵手紙教室を開いている。毎週金曜日の金ママの会がある。婦人消防の方からの防災への協力や、毎年のカボチャの差入がある。保育園とは相互交流をしている。	○	矢沢保育園の行事に招かれて参加した。子供たちの踊りなどの訪問がある。小学生の歌の訪問がある。中学生の訪問を計画している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーとの連絡も密にして、居室に空きがあれば連絡し、必要性の高い方の入所に役立っている。	○	他のケアマネジャーの見学などがあり、意見の交換もできて支援に役立っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの一人を運営推進委員に迎え、話を聞き協力体制をとっている。	○	介護度の変更が必要な際は、地域包括支援センターの職員に来所してもらい、当方のケアマネジャー・本人・家族同席で行う。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係は契約を結び、適切な医療が受けられるようにしている。予約診療をお願いし、利用者の負担に配慮している。	○	家族の了解の下に入院、往診が可能な医師の下で受診をしてもらっている。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門の医師の受診を勧め、看護師が日ごらの状態を詳細に記録したアセスメントを作成し、医師に手渡している。	○	詳細なアセスメントを介して医師との関係を築き、診断、治療に役立ててもらい効果をあげている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	2人いる看護師は日ごろから利用者に親しく接し、日常の健康管理に努め、業務日誌、個別記録、受診記録等を備えている。	○	すべての職員が記録できるような様式にし、後で役に立つような記録をしている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後、1週間以内に家族と連絡を取りながら面会をし、更に長期の場合も1カ月以内であれば、2、3度面会をして病院関係者と情報交換している。	○	10月に認知症が進み入院となった利用者が2人あった。いずれも3～5週間の入院中に面会をして情報交換し、退院となり再び皆と一緒に暮らしている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	10月末に一人看取った。終末期が近づいたので家族とも相談して往診・入院が可能な医院で受診してもらい、最後の5日間を穏やかに過ごし老衰で亡くなった。	○	終末に向かっていると思われる利用者がほかにもあり、往診・入院可能な医院と連絡を取りながら健康管理を行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時や終末期に向けた支援のための勉強会、往診・入院の受け入れ可能な医師との連携ができていますので、今後の変化への対応の準備はできています。	○	往診・入院の受け入れ可能なかかりつけ医の存在があり、健康診断、インフルエンザ予防接種の際も受診して健康管理のパイプを太くしています。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者への十分な話し合いの上に移り住む利用者の情報を可能な限り提供して、利用者のダメージを少なくするよう配慮している。	○	住み替えの10日後くらいに訪問して面接し、その後の様子を知り住み替えのダメージがないことを確認し職員にその旨を伝えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの生活を知り、本人、家族からの話を聞いてその人となりを認識し、理念に沿って人格を損ねるような言葉かけをしない。守秘義務の誓約書に職員は署名している。	○ 言葉かけの重要性は職員は十分認識していて、対応には注意している。個人情報の取り扱いには十分注意している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃から一人ひとりを注意深く見守り、希望の表出に気づき、そのことを職員はミーティングなどで共有して希望するような生活を送れるようにしている。	○ 自己決定ができるように、日頃から職員は聞く姿勢、受容する心を養い、自己決定できた喜びをともに喜びあうなどしている。希望しないことを強制することはないようにしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を支えるために、日頃から望んでいることを知ることに努め、職員の毎日の取り組みや役割分担の中でかなえられるように支援している。	○ 一人ひとりのペースを大切にするために、食事の時間、就寝の時間、散歩の時間などをずらしたりして調整している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出の際には、本人の好みの服装で出かけるようにしている。理美容は、家族が来て行う利用者、好みの美容室へ行く利用者、出張の美容師が行うなど様々である。	○ お洒落は皆喜んで興味を示すので、その人らしいやり方で行っている。重度化に伴い、好みの美容室に行く人の割合は少なくなり、出張美容師を利用する人が増えてきている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は、季節の物、行事食を取り入れて利用者の好みに合ったものを利用者、職員と一緒に作るようにしている。	○ 野菜を刻むことが好きな人、ゴマすりの上手な人、洗い物の好きな人、それぞれ楽しんで行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ楽しみ方は、お店でおやつを選び買うことから始まり、好みでコーヒータイムを設けたりしている。	○ おやつ時間に少人数で交代に外出での喫茶を楽しんでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを知り、それに応じた介助をしている。気持ちよい排泄は、健康管理に大切なので記録している。	○	排泄による健康管理のために、その変化、量、便通の有無のチェックを行い異常の発見に努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	あらかじめ入浴予定はあるが、希望によっての変更があり、タイミングについては日々変わるので一人ひとりに合わせている。	○	入浴を楽しんでもらうために、一人ひとりにあつた介助の仕方を工夫している。温度、衣類の着脱の工夫、洗身の仕方、ドライヤーのかけ方にもそれぞれに対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寒暖に応じたベッドメイキングに心掛け、失禁対応としての防水シート、持参の好みの毛布を使用するなどして良眠を促している。	○	良眠は、日中の活動に良い結果をもたらすので、就寝時刻、ベッドメイキング、寒暖への対応、見守りなどに配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活を知り、一番輝いていた頃、楽しい思い出、懐かしい友の話などを話題にし、活力を得て気晴らしをしている。	○	気晴らしの支援は、職員もともに楽しめる時間となり、楽しいことの共有は、新密度が増し、信頼が得られる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を一人で管理できる利用者は少ないが、預り金の中からおやつを買いに行った時、外出、喫茶などの際にその場で手渡して支払いをしてもらっている。	○	これからも、外食、喫茶、おやつ購入の際などに職員が一人ひとりにお金を渡して支払うなどの支援をしていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は度々あり、殆どの利用者はそれぞれの体調に応じて月1回～2回の外食、月1～2回の喫茶、観劇、お祭り見物に行っている。	○	外出計画表を作り、その日の利用者の体調、天候などを勘案してこれからも実行し、利用者の希望に沿った支援をする。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段は行けない観劇や文化施設でのお茶会への参加などを通して、楽しかった、上品になったなどの思いの感想が聞かれた。	○	お祭り見物で、見ている利用者の家族が踊りの中にいて一緒に写真を撮ったりしたが、家族に呼びかけてそういった機会を増やしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月絵手紙のボランティア訪問があり、その時書いたそれぞれの絵手紙を、書ける人は自分で宛先を書き、他は職員が書いて送っている。電話はかけたい時にかけられるようにし、利用者にかかってきた電話についても出してもらっている。	○	手紙のやり取りを頻繁に行っている利用者が一人、手紙を送ってくれる友人を持っている利用者が二人いる。「ありがとう」の言葉だけでも書いて送れるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間いつでも対応できるよう夜勤者も心得ている。訪問があれば訪問者に合わせて居室・和室・リビングでと柔軟に対応している。	○	居心地の良さに配慮して接待の場に変化を持たせている。子供連れの訪問は、他の利用者にとっても大歓迎で、お茶菓子もそれなりの配慮をしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所時に身体拘束をしない説明書を提示して、署名してもらっている。具体的に説明を加えている。	○	職員も身体拘束しないことについてはしっかり認識しているので、身体拘束のないケアを実践している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの実践は、ほぼ守られているが、交通量の多い道路が縦横に入っている場所に位置しているので、それに配慮しながらのケアである。	○	統合失調症の利用者が、不穏時に外に飛び出そうとすることがあったが、職員の介護により落ち着いている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りの大切さは職員は十分に認識しており、安全への配慮は十分に行っている。夜間は3回の見回りを行っている。	○	所在の確認は、常に意識しながらさりげなく対応し安全に努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物の取扱いと保管場所については決まりがあり、危険防止に努めている。	○	洋裁で生計を立てていた利用者には、職員と一緒に布を切る、紙を切るなどして満足してもらっている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止については、24時間常にその危険性があり、防災の研修を受け勉強会を開いて一人ひとりの危険の可能性を理解し、事故防止に努めている。	○	事故防止では、転倒・窒息・誤薬・行方不明・異食があり、医師・家族との相談の結果入院治療により改善した例がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の全員が普通救急講習会修了証を取得している。	○	防災担当者は、定期的に消防署の研修を受け、避難訓練を実施している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行って避難方法を利用者・職員とも体験している。地域の婦人消防隊の協力を得ている。	○	婦人消防クラブ員の指導による避難訓練を行った。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクを常に意識しながらの毎日のケアであるが、抑圧感のない暮らしの支障とはなっていない。	○	一人ひとり異なるリスクを背負いながらの暮らしであることを十分認識しながら、より安心して楽しめるようケアに努めている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルの記録、入浴時の皮膚の観察、表情、排泄、食事の記録を怠りなくつけて情報の共有、早期発見としている。	○	既往症の病名や現在の病気について知り、勉強会で確認しながら、一人ひとりの健康対応への手がかりとしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護足が一人ひとりの薬の服薬、副作用までの一覧表を作り掲示して、服薬の支援体制をとっている。症状に合わせた服薬は、毎朝のバイタルチェックや症状の変化を看護師に報告・指示を得ている。	○	薬については、きちんと服薬を見届ける。個人の薬箱に入れるときは二重のチェックをするなどの確認をしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、便秘予防は大切で、管理栄養士の指導のもと栄養のバランスと繊維質のものをとる、散歩などで体を動かす、冬場は廊下を散歩するなど便秘解消に努めている。	○	重度化に伴い、ベッドで休んでいる時間が長いこともあって、排便記録をチェックしながら下剤の服薬や摘便などで対応して体調を整えている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎朝、口腔内の清潔保持のためうがいを施行し、または口腔ケアティッシュを使って清潔保持に努めている。	○	義歯を装着している場合も、義歯の洗浄、義歯の管理を行い、清潔の保持と共に摂食がスムーズに行えるよう配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が食の管理を行い、栄養バランスはもとより水分摂取に気を配り、一人ひとりの好みに応じている。</p>	○	<p>重度化して、水分摂取が思うようにならなかった時にもゲル状の食物や好みのものに対応し、細かく記録して確認できるようにした。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症予防の研修を受け、免疫力の低下している利用者を考慮しての対策を講じている。予防接種、受診、投薬の管理、食事前のアルコール消毒等々行っている。</p>	○	<p>インフルエンザは家族同行の下、予防接種している。回線は受診、投薬してもらい、入浴の際には個別対応している。職員が風邪のときには休む、またはマスクを着用するようにしている。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食材は、新鮮なものを購入し、2~4日で使い切ることにしている。ふきん、調理器具等の衛生管理は使用後必ず行っている。</p>	○	<p>食材は、賞味期限を守ることは勿論、利用日を記入して使い切るようにして、冷蔵庫内の清潔を保っている。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>出入り口の扉は開き、いつでも開けることができるようになっている。車いすにも対応できるよう、ゆるやかな手すり付きスロープとなっている。</p>	○	<p>出入り口に邪魔なものは置かないようにしている。常に花を配して、歓迎の意を表している。駐車場も出入口のすぐわきにある。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関は、車いすがゆったり入れるように広く、また廊下も広く、居室、リビング、台所は明るく不快な音、光はない。花・季節の行事(水木、七夕、クリスマス、正月)用品を飾って居心地の良い空間となっている。</p>	○	<p>木材をふんだんに使った建物で、構造材の太い柱がゆったりとした空間を作り出している。和のしつらえの中で年中行事を楽しみ、たっぷり季節感を味わっている。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間であるリビングには、テーブルと一人ひとりの座り心地のよい椅子を配置している。和室があり、夏はテーブル、冬はコタツとして昼寝したり団欒の場所になっている。</p>	○	<p>車の行き来や外の景色が見える陽だまりのスペースにソファを配置し、そこで好んで仲良し3~4人組がおしゃべりしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたたんすや小物、ある人は夫の仏壇を飾り、好みの空間をつくっている。	○	入所時に好みの家具など使いたいものがあれば、居室に配置できることを伝えてある。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室内には、換気扇を設置して空気の淀みのないようにしている。温度調節については、温度計を用いてこまめに調節し、冬は加湿器を利用している。	○	天気の良い日は窓を開けて換気し、暖房は温度調節をこまめにしている。加湿器は必要に応じて風邪などの時には居室でも使用している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かすと同時に事故の防止にも努め、建物内部はバリアフリーとなっている。廊下には手すり、トイレの立ち上がり用の手すり、風呂にも安全を考慮した手すりがある。	○	居室に箒、塵取があり、掃除ができる人は進んでやっている。衣装の整理もできる人は行う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室・下駄箱には名前が付いている。日めくりカレンダーで今日の日付がわかる。	○	トイレ、お風呂場にはすぐにわかるような絵で表示してある。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りのベランダ、芝生はよく利用している。天気の良い日はお茶を飲んだりもする。	○	ベランダの鉢植えの草花の手入れなども行っている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全体的な外出、毎日の一連の介護(入浴、食事、活動など)は取り組んでいるが、一人ひとりに対応することの必要性が感じられ、小単位(3~4人)または1対1の外出、ドライブ、喫茶、外食など特に好まれている。近くに賢治記念館、博物館、童話村、新花巻駅、新渡戸記念館などの居心地の良い場所があり、よく利用して喜んでもらっている。また、遠方のほうからの家族、友人、知人は、新幹線の駅の近くなので便利だと喜んでる。自然もいっぱいグループホームだんけ胡四王は住み心地の良い空間を作り出している。